

なかよしのひけつ

オーストラリア メルボルン日本人学校 4年 橋本 知子

わたしは、父の転きんでメルボルンに来ました。1年4ヵ月住んでいます。

(やっぱり日本がいいな！友達に会いたいし、日本に帰りたいな！)と思うことがたくさんあるけれど、(メルボルンに来てよかったな)と思うこともあります。

わたしがメルボルンに来て、まずおどろいたのは、いろいろな国の人がからしていることです。ここは、どこの国なのかわからないくらい、さまざまな国の人を見かけます。妹が通う、げんちのようちえんに行くと、オーストラリア、インド、ギリシャ、トルコ、イギリス、中国など、いろいろな国から来たお友達があります。みんな生まれた国、はだの色がちがうし、英語を話せない子もいるのに、とてもなかよしです。こんなにいろいろな国のお友達がいるなんて、妹ってすごいなと思います。

なぜ、いろいろな国の人がか、こんなになかよく生活できるのだろう。戦争をしている国もあるのに……。どうしてだろう。

それは、みんなが思いやりの心をもっているからなのだと、わたしは気づきました。

例えば、電車やトラムに乗ると、必ず妹とわたしに席をゆずってくれる人たちがいます。立っているとあぶないから、子どもが乗ってくると、席をゆずってくれるのです。いろいろな国の人がか、あちこちで立ち上がってくれるので、どこにすわったらいいのか、まようこともありました。

あるときは、ベビーカーに妹を乗せていると、

「Get off.」

と、おじさんが声をかけてくれました。母がか、

「Yes.」

と答えると、おじさんは、ベビーカーを持って、ステップを下りてくれました。一度や二度ではなく、いつもだれがか声をかけてくれます。なんて親切なのだろうと、母とわたしはいつも顔を見合わせてニコニコします。

ほかにも親切だなと思うことがあります。母もわたしも、英語がとくいではありません。だから、日本語なら伝えられることを、英語だと言いたいことすべてを伝えられないのです。でも、知っている言葉を使って、なんとかかわかってもらおうと、一生けん命に話すと、どの人もやさしいひょうじょうで、うなずきながら聞いてくれます。

反対に、相手の話が聞き取れなかったときに、ごめんなさいと聞き返すと、いやな顔をしないで、どの人もゆっくりといねいに話してくれます。これは、メルボルンにはいろいろな国の人がか住んでいることを、みんながしっかりわかっているからなのだと思います。

相手を思いやる心があれば、ゆるすこともできるし、親しくなれます。小さな親切でもそれがたくさんになれば、生まれた国や育った文化がちがっても、みんながなかよくなれるのです。わたしは、メルボルンに来て、それを知ることができました。